

船津公人先生、最終講義のご案内

拝啓 皆様には時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、船津公人先生は二〇二〇年十二月に六十五歳をお迎えになり、二〇二一年三月をもって東京大学を定年でご退職されました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により最終講義の実施を見送ってきました。この度、コロナウイルスの感染状況が好転に向かっているため、最終講義ならびに交流会を開催する運びとなりました。

先生は、一九七八年三月九州大学理学部化学科をご卒業後、同大学大学院理学研究科化学専攻修士および博士課程に進学され、在学中は都野雄甫教授の下で物理有機化学の研究に取り組み、一九八三年に理学博士の学位を授与されました。一九八四年三月に豊橋技術科学大学工学部物質工学系助手に着任され、ケモインフォマティクス研究を開始、同大学工学部知識情報工学系講師、同助教授と昇任されました。二〇〇四年四月に東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻に設置された俯瞰環境工学寄付講座の客員教授、二〇〇九年四月に同大学院工学研究科化学システム工学専攻の教授に就任されました。

先生は現在まで三八年に亘って、化学情報の高次処理と知識構築基盤確立の研究に取り組み、国内外のデータ駆動型化学（ケモインフォマティクス）の分野開拓に先駆的・主導的役割を果たされてきました。その成果は、分子・材料設計（何をやるか）、環境・人体への有害性評価（それは作って良いか）、有機合成経路設計（どうやるか）、有機化合物の自動構造推定（それはできたか）、そして化学プラントの運転監視と制御（それを製品としてどう作るか）という幅広い分野にわたっており、化学データ処理の基礎研究から実用的応用・実装までを一体として取り組むことで、データ駆動型化学の活用の可能性を具体例とともに明確に示す開拓的な貢献をされてきました。我が国におけるデータ駆動型化学のコンセプトと具体的な研究の形は、正に先生によって主導・開拓され、化学研究・開発にとって、もはや必須の領域として結実してきました。我が国のデータ駆動型化学研究の発展の道程は、先生の研究業績および活動の影響を大きく受けていると言っても過言ではありません。

以上のように、先生は分子・材料設計から製造に至る化学の中心的課題を対象として、データ駆動型化学の基礎から応用までの幅広い研究および実装活動を展開され、その先駆的・開拓的研究成果は、手法の斬新性および実用性の観点から国内外の学术界・産業界により高く評価されています。東京大学および豊橋技術科学大学在職中には約二百名の学生や研究スタッフを指導され、これらの卒業生・スタッフは大学・企業等において同分野の担い手として活躍しています。

先生の取り組まれた大型研究プロジェクトとしては、科学技術研究機構(JST)の戦略的創造研究推進事業(CREST)「医薬品創薬から製造までのビッグデータからの知識創出基盤の

確立」(研究代表者…二〇一三年十月と二〇一九年三月)、経済産業省「毒性関連ビッグデータを用いた人工知能による次世代型安全性予測手法の開発」(プロジェクトリーダー…二〇一七年六月と二〇二二年三月)があります。さらに民間企業などと、多岐に渡る延べ300件以上の共同研究にも取り組まれてきました。これらの研究は、三〇〇報以上の原著論文、二〇〇以上の総説・解説書・著書にまとめられています。

また先生は、このような時代を切り拓く先端的な研究を遂行してこれただけでなく、その優れた学識と教育への情熱をもって学生・後進の指導にあたられ、その卓越した講義に対して二〇一六年本学工学部より Best Teaching Award が授与されています。このほか九州大学、東京工業大学、高知大学、豊橋技術科学大学、山口大学などの非常勤講師として、また二〇一七年にはストラスブール招聘教授としても広く人材育成に努められました。

さらに学外活動にも精力的に取り組まれ、NEDO、JST、経済産業省などにおけるデータ駆動型化学関係の委員会の委員長・委員などを多数歴任されています。学会活動も活発に行っており、日本化学会情報化学部会部会長(二〇〇五年～二〇一四年)、同上ケモインフォマティクス部会部会長(二〇二〇～二〇二一年)、日本コンピュータ化学会理事(二〇〇四年～)などを歴任されています。また世界のデータ駆動型化学の発展にも大きく貢献され、二〇〇九年から隔年で国際シンポジウム Autumn School on Chemoinformatics を主催されるとともに、当該分野の日独、日仏ワークショップの日本側代表として活躍されました。これらの業績により、二〇〇三年五月に日本コンピュータ化学会・学会賞を、二〇一九年八月にはアメリカ化学会から当該分野のノーベル賞とされる Herman Skolnik Award を、また二〇二二年三月には日本化学会学術賞を受賞されています。

このほか、二〇一七年一〇月からは、クロスアポイントメントにより、奈良先端科学技術大学院大学データ駆動型サイエンス創造センター・研究ディレクターを兼務され、二〇二二年三月に東京大学定年退職後も、奈良先端科学技術大学院大学データ駆動型サイエンス創造センター・センター長・特任教授として、データ駆動型化学分野の新たな展開に取り組まれています。

つきましては、下記の通り最終講義および交流会を開催いたします。船津先生のご意向により、退職記念会は行わないこととなっておりますので、この機会に是非とも皆様お誘い合わせの上、多数のご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

二〇二二年十月吉日

東京大学大学院工学系研究科

化学システム工学専攻 専攻長 高鍋和広

記

【最終講義】

- 一. 日時：2023年3月3日（金） 十五時～十七時（十四時三十分より受付を開始）
- 二. 場所：伊藤国際学術研究センター・伊藤謝恩ホール（地下二階）
- 三. 講義題目：「データ駆動型化学が導く研究・開発のパラダイム変革」

【交流会】

- 一. 日時：二〇二三年三月三日（金） 十七時三十分より（十七時より受付を開始）
- 二. 場所：伊藤国際学術研究センター内「レストランカメラ」（一階）
- 三. 会費：一万円（当日受付にて承ります）

お手数ですが、最終講義および交流会それぞれにつきまして、次のグーグルフォームにて、二〇二三年一月十五日までに欠席をお知らせ下さい。

<https://forms.gle/KhQhmbaY3uKmlfG7A>

なお、交流会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、実施形態の変更、人数の制限または開催の中止等の措置をとらせていただく場合がございます。詳細については、参加のご希望をいただきました方々に、二〇二三年一月末までを目処に、メールにてご連絡申し上げます。

本件連絡先（お問い合わせは、なるべくメールにてお願い申し上げます。）

東京大学 大学院工学系研究科 化学システム工学専攻

教授 酒井 康行 Tel: 03-5841-7751

奈良先端科学技術大学院大学 データ駆動型サイエンス創造センター

准教授 宮尾 知幸 Tel: 0743-72-5393

E-mail: funatsu.celebration-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp